

平成28年度 社会福祉法人緑新会事業報告

1 はじめに

平成28年4月14日21時26分に、熊本県益城町で震度7を観測する地震が発生、その28時間後の平成28年4月16日1時25分には西原村及び益城町で震度7を観測する地震が発生し、多大なる被害が生じました。全国社会福祉協議会及び熊本県老人福祉施設協議会等からの応援要請もあって被害が甚大であった益城町及び南阿蘇村の施設に職員総数14名、支援日数合計52日間の派遣を行い、災害地の支援に努めてきました。東日本震災の派遣に続き、法人としては2回目の支援体制を行ってきたところです。派遣された職員も2次災害等も予想される環境のなかでの、支援活動でしたが、怪我等もなく、無事支援活動を終えることができました。今後さまざまな事案が生じた場合も、継続的な支援活動ができるように努めていきたいと感じたところでもありました。

2 事業の推進

生計困難者のための支援活動が平成28年1月1日より事業開始となりました。改正された社会福祉法人の制度改革において、特に求められているのが「社会貢献」というテーマです。現在熊本県社会福祉法人経営者協議会及び全国社会福祉法人経営者協議会において足並みをそろえて取り組まれているのが「生計困難者のための相談支援事業」です。当法人でも上記日よりサービスの提供を開始し、今日まで2件の事案に対しての取組を行ってきたところでもあります。

本事業については、下天草地域での受託可能な事業所は少なく、今後相談件数の増加も考えられることから、行政及び熊本県社会福祉協議会等と連携を取り合いながら、社会的ニーズに対応を行っていきたいと考えています。

小規模ホーム一服処「よんなっせ」については昨年4月を最後に事業の休止を行ってきたところです。但し、ホームの跡家活用については家主様との売買契約も終了したことから、今後の使用方法については有意義に活用できるよう検討を行っていく予定としています。



旧小規模ケアホーム一服処「よんなっせ」

3 研修関係

本年は県社協、老施協、水俣研修等々の他に、総合健康推進財団へ依頼し、労働局の助成金を活用しながらキャリアアップ研修への取り組みを行ってきました。一部の職員の参加研修ではなく、極力法人内の職員が満遍なく参加できるようなプログラムを作成。5月からの研修予定が熊本地震の影響により、7月からのスタートとなりました。冬場のインフルエンザの発症等により、後半過密スケジュールとなってきた時期はありましたが、研修委員の方々の調整もあって有意義な研修プログラムが実践できたと思っています。



日本介護福祉士会長 石本淳也会長による研修会

4 法人運営について（経営組織のガバナンスの強化等）

社会福祉法人制度改正に伴い昨年12月に新定款の変更及び評議員選任・解任委員会の発足、そして本年4月からの新たな評議員の選任を決定させていただいたところです。昨年度は理事会を4回開催、26議案について審議を行い、評議員会は3回開催し、20の議案について審議を行っていただきました。新規に設けた評議員選任・解任委員会は2月に開催しました。地域社会のセーフティネットを構成する社会資源としての役割を果たすためにも、積極的な取組を継続していくよう努めていきたいと考えています。

また事業運営の透明性を図るためにも、法人のホームページをリニューアルし、現況報告書・貸借対照表・収支計算書等についても掲示を行っていくと同時に、法人内でのさまざまな行事についても情報提供を行っていきます。

5 人材確保ための取組

当法人は60歳定年退職制をとっており、本年3月末現在で定年後の継続雇用者が5名を数えました。5月以降も1名の方が希望されています。今後は定年後の働き方の見直しと、法人職員内の年齢構成を考えながら採用計画をたてていくことが重要になってきます。また毎年新規学卒者を最低1名確保して行くこととします。本年度も熊本県が行った人材確保のための助成金（熊本県長寿を支える地域の介護職員等研修支援事業）も有効に活用でき、新

規介護職員の雇用に結びつけることができました。専門職と言われる看護職員及び栄養士等については引き続きハローワークや人材バンク及び専門学校等にも求人募集等を出し、雇用に結び付けていきたいと考えています。

6 資格取得のための支援

介護福祉士の受験者数が全国的に見た場合、平成27年度と28年度を比較した場合、半減したとのことでした。このことは受験資格のための要件として「実務者研修」の受講が義務付けられてきたことが大きな要因だと考えられます。この実務者研修を受講するための費用が約10万円程度必要となってきます。当法人では熊本県社会福祉協議会の介護福祉士等修学資金貸付事業（セーフティネット補助金）により支援を行っており、平成29年度以降の受験希望者に対しても、希望の可否に係らず支援体制を整えていきたいと考えています。なお、平成28年度は新たに3名の職員が介護福祉士の資格を取得することができました。介護福祉士受験の支援体制のみならず、介護支援専門員受験等についての支援も行っていく考えです。

7 職員配置基準に関する緩和処置

当天草地域では職員の不足により施設の定員割れが生じているところが複数見受けられます。且つ本年4月と7月には新たに地域密着型施設として定員29名の施設2箇所の新設がなされます。こうした状況の中において当法人の施設の職員配置基準は下記の表となっています。しかし年齢構成的に見ると40代以上が本年4月1日現在で52.7パーセントを示していることから、年齢構成への見直しが必要となってきます。本年度の職員年休取得数については1,149日、取得率は54.3%となっています。民間企業や医療法人、社会福祉法人などでは平成27年度の調査結果では50.8%が全国平均となっていますので、それを上回っていることとなります。

職員配置基準表

施設区分	全国平均（人）	緑新会（人）
特養従来型 （SS含む）	1.74 1.88（熊本）	1.62
あがんなっせ	1.64	1.54
グループホーム	1.28	1.01
たんぽぽ （定員20名未満）	2.31	2.34

部署別年休取得率

事務・総務課	53.4%
介護計画課	43.5%

医務・看護課	71.4%
従来型介護支援課	44.8%
地域密着型介護支援課	64.5%
栄養管理課	31.1%
通所介護・居宅支援	73.5%
グループホーム	60.7%
平均	54.3%

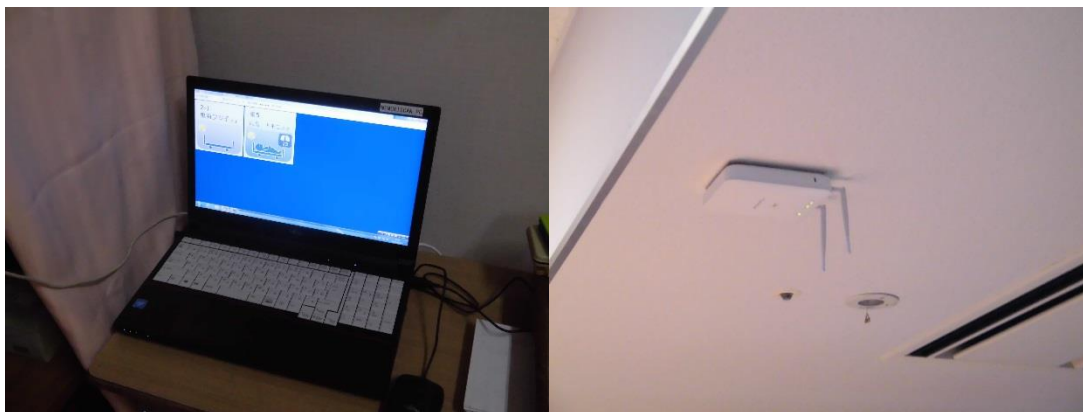
職員年齢別割合率

年代別	人数(人)	割合(%)	割合(%)	割合(%)
10代	2	2.7	29.7	47.3
20代	20	27		
30代	13	17.6	23	
40代	4	5.4		
50代	22	29.7	47.3	52.7
60代	12	16.2		
70代	1	1.4		
合計	74	100%	100%	100%

8 介護ロボット等の導入に向けた取組

職員の腰痛予防対策として昨年はリフト機器の導入を行いました。今回は公的介護施設等整備費補助金を活用し、介護ロボットとしてパラマウンベッド「眠りSCAN」の導入を行いました。この機器は、睡眠日誌（眠りSCANレポート）が、図面で、リアルタイムで確認でき、毎日のデータを目で確認し、直前2週間の睡眠日誌を開くことができるため、最近の生活リズムが簡単にでき、測定データの印刷も可能となります。居室での、「睡眠・覚醒・起き上がり・離床」が介護職員室で確認できるので、スタッフが少ない夜間帯も、入居者様の状況に合わせた介護、見守りが可能となってきます。24時間での見守りが可能であり、また就寝中の入居者様の呼吸数も確認でき、iOSモバイル端末を夜勤業務の際は持ち歩き、移動中でも確認ができ常に見守りを行っています。

なお、介護職員の処遇改善加算の受給対象としても研修会の開催や、職員の業務改善のための取組等が条件となっていることから、今後も継続した取組を行っていく予定としています。



介護ロボット「眠りSCAN」

9 経営状態について

経営状態については、事業活動収入が前年度より2,958,860円減額となった。これはベッド稼働率の低下と介護報酬単価の影響である。当期活動増減差額は前年度より改善したが、マイナス746万円となっている。人件費比率は前年度75.3%に対し、今年度は70.2%となったが、今後の課題としては70%を越さないように努力していきたいと考えている。

従来型特養ベッド稼働率

平成25年度	99.08%
平成26年度	98.36%
平成27年度	97.07%
平成28年度	95.46%

地域密着型特養ベッド稼働率

平成25年度	同一指定のため従来型と一体化
平成26年度	97.58%
平成27年度	96.61%
平成28年度	97.29%

ショートステイベッド稼働率

平成25年度	10名/日
平成26年度	8.6名/日
平成27年度	7.5名/日
平成28年度	7.6名/日

デイサービスセンター稼働率

平成25年度	8.9名/日
平成26年度	9.2名/日
平成27年度	7.5名/日
平成28年度	6.8名/日

グループホームベッド稼働率

平成25年度	98%
平成26年度	91.9%
平成27年度	95.8%
平成28年度	98%

平成28年度採用職員及び退職職員数

採用職員職種	配属部署	正・非	採用人員	採用日
介護職員	特養従来型介護支援課	非	1名	8月4日
	特養従来型介護支援課	非	1名	11月1日
	地域密着型特養介護支援課	非	1名	4月1日
	地域密着型特養介護支援課	非	1名	9月1日

退職職員職種	配属部署	正・非	退職人員	退職日
介護職員	地域密着型特養介護支援課	非	1名	4月30日
管理栄養士	特養栄養管理課	正	1名	5月31日
看護職員	特養従来型医務・看護課	正	1名	7月31日
介護職員	特養従来型介護支援課	非	1名	8月31日
介護職員	特養従来型介護支援課	非	1名	9月30日
介護職員	地域密着型特養介護支援課	正	1名	9月30日
※介護職員	グループホーム	非	1名	9月30日
介護職員	特養従来型介護支援課	正	1名	10月31日

※印＝契約期間満了のための退職者

1. 新和町の人口、高齢化の状況

(3月31日現在)

人 口		20年	25年	26年	27年	28年	29年
	男		1,761	1,603	1,564	1,531	1,487
女		1,969	1,795	1,761	1,709	1,664	1,610
計		3,730	3,398	3,325	3,240	3,151	3,059
高齢人口	男	541	543	562	571	578	576
	女	821	788	787	783	788	772
	計	1,362	1,331	1,349	1,354	1,366	1,348
高齢化率		36.5 2	39.1 7	40.5 7	41.8	43.3 5	44.0 7
要支援 認定者	計	65	77	85	86	78	77
要介護 認定者	計	168	206	222	214	304	242
認定済 比率	男	27%	24.4%	29.3%	28.6%	27.9%	31.1%
	女	73%	75.6%	70.7%	71.4%	72.1%	68.9%
合 計	計	100%	100%	100%	100%	100%	100%

10 新和地域の現状に対する法人としての今後の取組について

平成20年3月と本年3月を比較した場合、上記表のように約670名の人口の減少が見られています。この傾向は今後とも拍車がかかることが予想されます。同時に高齢化率は高まってきており、将来を見渡したときに10年から20年先の見通しもわかりにくくなっているように感じます。そうした環境において「社会福祉法人としてどのように地域と寄り添いながら支えていかなければならないか」と言う、継続的な課題もあります。

昨年の事業報告においても述べているように、社会福祉法人は公益法人としての役割のみならず、人材を含めた地域との連携が強く求められているように感じています。必ずしも第1種社会福祉事業及び第2種社会福祉事業のみならず、地域を支えて行くためには異業種間の連携、そして、そこにかかわる多くの人たちとの交流に積極的に関わり合いを求めていくことが重要であると認識しています。社会福祉法人として、または高齢者介護施設としての役割だけではなく、視点を大きく見据えて多種多様な面からも幅広く対応できる機能を持ち備えることが必要だと考えています。

事務総務課事業報告

① 「笑顔」と「挨拶」を大切に!!

つぶやきノートの活用はなかったが、感動カードは 42 枚出ており、職員会議で報告を行った。笑顔を心掛け、笑顔を見る努力も少しずつできていると感じている。

② チームケア・チーム組織作りの強化

「動き出しは当事者から」に対しては、研修の参加は出来たが、定着には職員間の温度差があり、今後も継続をしていき、職員一人ひとりのリーダーシップにつながる様にしていきたい。

経理部門は別紙決算報告のとおりである。

生活相談員事業報告

1. 利用者処遇・サービス提供状況

・年度別入居者状況

	25. 3. 31 24 年度	26. 3. 31 25 年度	27. 3. 31 26 年度	28. 3. 31 27 年度	29. 3. 31 28 年度
介護度	3. 9	3. 9	3. 9	4. 1	4. 1
年 齢	88. 5	88. 3	87. 4	87. 3	87. 3
男 性	4	5	5	8	8
女 性	4 6	4 5	4 4	4 2	4 2
在籍期間	2 年 10 ヶ月	3 年 2 ヶ月	3 年 7 ヶ月	3 年 9 ヶ月	3 年 5 ヶ月
入院日数	366 日	270 日	324 日	481 日	622 日
外泊日数	9 日	2 日	0 日	0 日	1 日
新規入所	18 名	10 名	4 名	12 名	15 名
退所者数	18 名	10 名	5 名	11 名	15 名
特例入所	84 日	133 日	0 日	0 日	11 日
短期入所	3630 日	3649 日	3151 日	2757 日	2773 日

※ 28 年度要介護認定更新結果

更新者数	介護度変化なし	介護度悪化	2 段階悪化	介護度軽減
------	---------	-------	--------	-------

31名	16名	12名	1名	2名
100%	51.7%	38.7%	3.2%	6.4%

2, 事故報告

- ・保険者への事故報告～6件（施設入所5件 短期入所1件）
 - ※6件のうち、骨折が2件、誤薬が2件、感染症が1件（11名感染）であった。また、2件が介護中に発生した事故（誤薬以外）であった。
 - ※事故後は遅滞なく保険者へ報告するとともに、家族へも発生原因と再発防止策について報告し謝罪する。（入院費等の損害賠償2件）
 - ※短期入所においては、担当の居宅支援事業所へも報告し、事故発生時の状況や以後の対応についても説明する。

3, 苦情受付・処理

- ・苦情(要望)受け付け 2件（施設入所・短期入所1件ずつ）

【苦情内容①】居室天井のエアコンのフィルターが埃で目詰まりしているので、清掃してほしい。

【対応】要望を頂いた翌日フィルターの清掃を実施し、その後専門業者にて点検清掃を実施する。

【苦情内容②】職員の対応、態度について 不愉快に感じた。謝罪は必要ないが、ここの評判を悪くするので、改めた方が良い。

【対応】当該職員へ事実確認をし、苦情があったことを告げ以後留意するよう口頭注意する。また、その旨を苦情申し出者へ報告し謝罪する。

その後、苦情申し出者へ最近の職員の言動等について伺うと、「近頃は気にならない」との事であった。

※苦情受付については、29年1月に開催された、新和苑家族会研修の際に報告する。

4, 介護実習等受け入れ状況

- ・介護職員初任者研修
 - ※施設実習～1名（2日間） 通所～1名（1日間）
- ・福祉体験学習【新和中学校～9名（3日間）】
- ・職場体験学習【新和中学校～3名（3日間）】

5, ボランティア等受け入れ状況

- ・介護支援ボランティア、傾聴ボランティア ～ 実績なし
- ・介護あんしん相談員受け入れ ～ 4日間

6、入所待機者の状況

・待機者数

平成28年3月31日	従来型特養	52名	地域密着型	27名
平成29年3月31日	従来型特養	70名	地域密着型	36名

7、委託事業等

- ・ショートステイ事業 1名(12日間)
- ・配食サービス事業 9名 年間配食数 1,077食
- ・福祉避難所 3名(6日間)

8、行政・保険者、各事業所との連携

- ・保険者とは各種の申請をはじめ、事故報告や相談、虐待事例への対応等日頃より密に連絡を行ってきた。
- ・各居宅支援事業者とは、緊急的なショートステイの受け入れや、空床状況の情報提供を行い、共に連携を深めることができた。

※関係居宅介護支援事業所数～15事業所、2包括支援センター

9、その他、地域福祉活動等

- ・認知症サポーター養成講座 2回開催(新和町内・市職員)
- ・新和町ボランティア連絡協議会
- ・あまくさ♡認知症を地域で支える会～運営委員として参加
- ・介護職員初任者研修講

従来型特養医務・看護事業報告書

1. 利用者

平成28年4月

(検査項目)

- ・血液検査、検尿、体重、血圧、胸部聴診、心電図、MRSA
(MRSA陽性…2名)
実施人数 29名(1名入院中にて実施せず)
- ・胸部X線…地域医療センターより来苑
実施人数 27名(5月25日実施)
- ・歯科健診…岡田歯科より来苑
実施人数 29名(4月27日実施)

*健康診断の結果

胸部X線再検査 5名

(後日、新和病院にて胸写再検査実施)

平成28年10月

(検査項目)

- ・歯科健診…岡田歯科より来苑

実施人数 29名 (10月26日実施)

予防接種関係

- ・インフルエンザ予防接種 (11月17日)

実施人数 28名 (

- ・肺炎球菌ワクチン予防接種

実施人数…6名 (希望者のみ)

入院状況

- | | | | |
|--------------|----|----------|----|
| ・肺炎(誤嚥性含む) | 8名 | ・尿路感染症 | 2名 |
| ・不明熱 | 1名 | ・心不全 | 3名 |
| ・脳梗塞 | 2名 | ・胆のう炎 | 1名 |
| ・慢性閉塞性動脈硬化症 | 1名 | ・貧血 | 1名 |
| ・胸水貯留 | 1名 | ・蜂窩織炎 | 1名 |
| ・気管支喘息 | 1名 | ・脳出血 | 1名 |
| ・外傷性くも膜下出血 | 1名 | ・左大転子部骨折 | 1名 |
| ・インフルエンザ A 型 | 1名 | ・血圧低下 | 1名 |
| ・胃瘻造設術 | 1名 | | |

氏名	入院回数	入院期間	氏名	入院回数	入院期間
K・O	1回	8日間	S・Y	1回	8日間
Y・O	1回	23日間	S・H	1回	50日間
Y・M	1回	26日間	H・K	2回	21日間
M・M	1回	12日間	Y・Y	3回	35日間
F・M	3回	95日間	S・S	1回	20日間
K・Y	1回	6日間	M・Y	2回	39日間
S・S	1回	13日間	Y・O	2回	14日間
S・I	2回	43日間	N・S	2回	19日間
M・Y	2回	19日間	K・H	1回	5日間

2、まとめ

※入院者数…18名 入院回数…28回 入院期間総数…456日

毎年、病院受診の回数の増加も著明にみられまた、年々入居者様の高齢化

に伴い入院の回数、入院の期間も長くなっている。

今年1年を振り返り13名の方が退所され同時に14名の新規入所があった。

苑での看取りも4名・入院中退院の見込みなく退所される方など対応も困難となってきた。急変はもちろん夜間の点滴の管理や吸引等医療行為の必要性も問われる中、常に職員のスキルアップが必要不可欠となってきた事は確かだと思われる。

感染面においては大きな拡大はなかったがインフルエンザ A型がでて入居者様が2名罹患されてあと罹患者と同室の方1名に対しては予防的に抗インフルエンザ薬の投与がありそれ以上の拡大には至らなかった。またノロウイルス等の発生も無く予防に努めることが出来た。次年度も引き続き異常の早期発見・早期対応を図りたい。

あがんなっせ医務・看護事業報告書

1. 利用者

平成28年4月

(検査項目)

- ・血液検査、検尿、体重、血圧、胸部聴診、心電図、MRSA

実施人数 20名

MRSA 1名

- ・胸部X線…地域医療センターより来苑

実施人数 20名 (5月25日実施)

- ・歯科健診…岡田歯科より来苑

実施人数 20名 (4月27日実施)

*健康診断の結果

胸部X線再検査 1名

平成28年度10月

- ・歯科健診…岡田歯科より来苑

実施人数 19名 (10月26日実施)

予防接種関係

- ・インフルエンザ予防接種 (11月17日)

実施人数 17名 後日2名実施 アレルギーの為1名未接種

- ・肺炎球菌ワクチン予防接種

実施人数希望者…1名

入院状況

・肺炎	2名	・尿路感染症	4名
・不整脈	1名	・下部消化管出血	1名
・消化管虚血	1名	・敗血症	2名
・偽痛風	1名	・腎不全	1名
・水疱性類天疱瘡	1名		

氏名	入院回数	入院期間
T・S	2回	28日間
N・I	2回	60日間
M・N	1回	10日間
H・T	1回	9日間
Y・N	1回	7日間
M・M	1回	5日間
T・M	2回	76日間

2、まとめ

※入院者数…7名 入院回数…10回 入院期間…195日

本年度は3名の退所（1名永眠・2名長期入院療養の為）があり、3名の新たな入居者様をお迎えした。状態観察行い健やかに入居生活を送って頂く様努めたい。入居者様の高齢化に伴い、圧迫骨折や尿路感染症、肺炎などの受診が多く見られた。又、認知症の進行による精神的なケアもDrや他部署との連携にて対応していく必要性が増してきていると思われる。インフルエンザ罹患が5名あり感染症予防対策の見直しを行いそれ以上の感染拡大は防ぐ事ができた。次年度も引き続き異常の早期発見、早期対応に努めたい。

【介護計画課事業報告】

（施設ケアマネジャー）従来型・地域密着型

■本年度は従来型特養の入居者様の変化が目立ち13名の方が退居されている。（地域密着型は3名）退居内訳は以下の通りで、空床が生じた後の新規受け入れに関しては受け入れ先の事情を除き1週間以内を目安として入居までの調整を図っているが、入居申請された方の中で、実際に入居へ移行できる状態の方は年々減少傾向にある。

（空床から新規受け入れまでの期間や受け入れ先については以下に記す）

■又、8月中は7名の方が新和病院へ入院されており、夏季特有の高温多湿が影響しての事は明らかでないが、喘息や肺炎が目立っていた。
 下半期では突発的な変化が多く、突然の心停止や脳出血・脳梗塞、転倒骨折等が生じていた。(3月末日時点でも入院者ゼロには至っていない。)

■入居者様・御家族様からの信頼・満足頂ける施設づくりとして、定期・随時の報告、相談受け等、関わり合いを細かく行い、得られた要望を適切に満たす事で現在の質を保っている。

面談に於いては、それぞれが抱えておられる様々な背景を受け止めた上で、心境を察しながら慎重に行っている。

(状態変化や介護度変更等は特に注意し、互いの共通認識の下で理解頂いている)

■以下、本年度中にケアマネジメントとして取り組んだ実務実績。

(ケアマネジャーとしての基本実務)

(項 目) / (件数)	従来型 (定員30名)	地域密着型 (定員20名)
定期・随時報告	203件	96件
ケアカンファレンス	78件	35件
施設サービス計画書作成	43件	14件
主治医への情報提供	40件	14件
看取り介護への移行	4件	0件

(退居内訳)

(内 訳)	従来型 (退居者：13名)	地域密着型 (退居者：3名)
看取り介護に於ける経過	4名	0名
新和苑での急変	1名	0名
法人内での移動・退居	1名	0名
病院搬送直後の永眠	1名	1名
入院中の経過 (在籍中)	2名	0名
入院継続による退居 (療養型への移行、転院)	4名	2名

■入退居状況詳細 (平成28年度)

(従来型：特別養護老人ホーム新和苑) 退居者13名、入居者14名 (特例含む)

異動月	入 居	退 居	内 訳	空床期間
4月		平成28年4月10日	看取り介護の実施による退居	2日

	平成28年4月13日		当法人グループホームより入居	
5月		平成28年5月9日	天草中央総合病院への搬送後の退居	9日
	平成28年5月19日		老健施設さわやかランドより入居	
6月		平成28年6月2日	看取り介護の実施による退居	6日
	平成28年6月9日		ひのわより入居	
		平成28年6月9日	新和病院入院中の経過で退居	3日
	平成28年6月13日		在宅・ショート利用中の経過で入居	
		平成28年6月17日	入院中の経過で病棟・療養型へ移行	3日
	平成28年6月21日		小規模多機能ひだまり利用中の経過で入居	
	平成28年6月27日	新和病院への入院継続にて退居	9日	
7月	平成28年7月7日		ニュー天草病院より入居	
9月		平成28年9月7日	新和病院への入院継続にて退居	6日
	平成28年9月14日		牛深市民病院より入居	
11月		平成28年11月7日	特養あがんなつせへ移動(本人希望)	10日
	平成28年11月18日		在宅・ショート利用中の経過で入居	
12月		平成28年12月15日	看取り介護実施による退居	8日
	平成28年12月24日		天草病院より入居	
		平成28年12月28日	新和苑での突然死にて退居	
1月	平成29年1月5日		在宅・ショート利用中の経過で入居	7日
		平成29年1月11日	新和病院への入院継続にて退居	
	平成29年1月13日		在宅・ショート利用中の経過で入居	1日
2月		平成29年2月22日	新和病院への入院継続にて退居	
3月	平成29年3月3日		老健施設ケーナガーデンより入居	8日
		平成29年3月10日	新和苑にて永眠・退居(算定なし)	
	平成29年3月13日		在宅・ショート利用中の経過で入居	2日

	平成29年3月21日		特例入居(天草市からの依頼により)	

■入退居状況詳細（平成28年度）

（地域密着型：特別養護老人ホーム新和苑 あがんなっせ）退居者3名・入居者3名

異動月	入居	退居	内訳	空床期間
11月		平成28年11月6日	新和病院への入院継続にて退居	0日
	平成28年11月7日		従来型特養より入居	
		平成28年11月8日	新和苑での急変にて新和病院へ搬送し、数時間後に永眠	8日
	平成28年11月17日		在宅・ショート利用中の経過で入居	
3月		平成29年3月30日	入院中の経過で退居	1日
	平成29年4月1日		在宅・ショート利用中の経過で入居	

空床期間は、退居が明らかになってから、次の方が入居されるまでの期間で、退居に至るまで入院されていた場合は、別途入退院状況で空床期間を累計。

■現状に於ける課題として、天草市内に於ける入居施設として特別養護老人ホーム・介護老人保健施設・有料老人ホーム・グループホーム等、増え続けており、入居待機者は年々減少傾向にある。

その中で、今まで関わりのあった医療機関からの受け入れも今後は難しくなる可能性もあり一層厳しくなる現状に新たな方向性を見出していかなければならない。

又、特別養護老人ホームが有する能力を地域の重度化へ柔軟に対応出来る体制づくりも課題である。

（取得できる加算の算定を含め、入居待機者の状態像を総合的に入居判定会で検討し受け入れ中）

(機能維持回復訓練)

入居者（従来型：30名）（地域密着型20名）（ショートステイ新和苑）

行事・作業療法等実施状況（従来型30名＋ショートステイ）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
実施回数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365回
参加延べ人数	124	162	136	182	105	147	105	79	81	108	80	63	1372名

個別訓練実施状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
実施回数(人数)	237	269	222	249	234	202	244	225	228	212	198	222	2742回

行事・作業療法等実施状況（地域密着型20名）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
実施回数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365回
参加延べ人数	98	62	75	88	62	76	71	66	110	86	33	75	902名

個別訓練実施状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
実施回数(人数)	184	210	184	195	209	193	202	163	182	197	148	162	2229回

■個別機能訓練内容

手技療法

- マッサージ：筋緊張や疼痛の緩和、浮腫軽減、筋肉の柔軟性保持、血流改善・促進
- ROM：関節拘縮の予防、運動能力維持

物理療法

- ウォーターベッド：血流促進、リラックス効果
- メドマー：血流促進、浮腫軽減
- ホットパック：温熱効果、血流促進、浮腫軽減

運動療法

- 歩行訓練：平行棒、付き添い、歩行補助具の使用（歩行力維持、浮腫予防・軽減）

- 肋木・滑車運動（体幹伸展、姿勢維持、関節可動域維持）
- 体操（筋力・関節可動域維持）

作業療法

- 農作物作り、収穫、洗濯物たたみ、テーブル拭き、掃除、新聞紙や広告での箱折り、季節に応じた掲示物の作成と展示等。

学習療法

- 写経、計算問題、間違い探し、パズル、塗り絵等。（楽しみながら脳の活性化を図る）

■ 上記以外にも、福祉用具の適正評価や、介護スタッフへの助言等を継続中。

■ 全体的な傾向として、加齢性機能低下は生活動作の継続にて何とか防げているが、疾患や怪我による変化は改善が難しく、無理なく出来る動作範囲を徐々に増やしながら廃用性の予防に努めている。

又、機能訓練として関わる際には、入居者様へ目的意識を明確にした上で気持ちを高め自らの意思で継続性が図れるよう働きかけている。

■ 平成29年度へ向けた課題としては、楽しみながら自然に心と体の働きを高める取り組みに重点を置き、暮らしそのものの活性化へ繋げていく。

従来型特養新和苑介護支援課報告

1. 生活面での支援について

ケアマネが作成したプランをもとに最適な生活を行って頂けるよう支援を行った。食前の嚥下体操を継続的に実施することが出来なかったため、計画的に実施していく。医務課や歯科医師及び歯科衛生士の助言のもと、口腔リハビリと口腔ケアの実施していく。ユニット的支援に取り組むことで、ご入居者様一人ひとりに合った最適な生活を送って頂けた。

2. 生活動作の支援

日常生活動作と中心とし訓練指導員の助言のもとに生活リハビリを実施し、能力に応じた個別メニューを無理なく援助行えた。本人様の訴えから疼痛の程度を把握し、緩和・軽減を図り必要に応じて福祉用具の活用を行い介護に対する負担・不安の軽減を図り、快適に過ごしていただくように努めた。今後も随時福祉用具の検討していく。

「動き出しは当事者から」の観点で、思い込みやリスクの回避を考え行動を制限してしまっていたが、些細な意思表示に気付く事で、次の行動に気付く事が出来、自ら動ける喜びと自信へつながったのではないかと思う。

3. メンタルヘルスケアの充実

ホールや介護スペースを活用しレクリエーション活動を行い、地域の方との交流が図りやすい様に環境作りを行い、ご家族や地域との交流の場として居室又は介護スペースの活用も行った。

4. 支援能力の向上

介護技術の向上を目的とし施設内・外部研修の実施し介護技術向上に努めた。

勤務時間の効率化を図る為、勤務形態で負担の偏りが無い様に調節行っている。必要に応じてシフトの調整も行っている。

ショートステイ（短期入所生活介護）報告

1. 安心できるサービスの充実

ご利用者の心身状態の把握、利用前に関係機関から必要な情報（基本情報、心身機能、介護量、問題行動、医療的管理等）を収集し、ご利用者にあった居室の提供、入浴方法、嗜好や要望に出来るかぎり応える事が出来た。

医療との連携し日々の心身の状況の確認を行い、環境の変化に伴う体調の変動に備えて看護職員と情報の共有し健康管理や健康状態に異変があった場合は、家族・かかりつけ病院と連携を図る事が出来た。

衣類チェックで間違いがあり、ご利用者にご迷惑をお掛けしました。ミスがない様に2名以上で名前・衣類数のチェック・写真での管理を行い衣類の間違いがない様に徹底していく。

2. 活動的な生活への支援

日常生活の中で機能維持のため在宅で行っている動作や行為など継続して行えるようにご利用者にあった居室のレイアウトや入浴方法の提供が出来、ショートステイ利用中、参加可能な催し物や余暇活動の参加に支援することが出来た。

3. 職員体制の充実

職員間での申し送り簿作成と夜勤者への伝達を徹底し、迅速に対応し送迎、入浴、食事、排泄、活動支援におい連携して行う事が出来た。

4. 緊急時受入れの対応

一時的避難所としての施設開放し地震や風水害などの自然災害、一時的な避難所として居室や食事などの提供出来るように準備しており、熊本地震後に一時的に受け入れる事が出来た。

地域密着型特別養護老人ホーム新和苑あがんなっせ介護支援課報告

1 その人らしく生活できる場の提供

居室の環境として、ご家族様と話をさせていただき、家で生活されていた時に使われていた物、写真など持って来ていただき、本人様の家として、過ごされやすい環境作りに努めた。

今までの暮らしで、畑仕事をされていた方も多く、苑内の畑で農作物の手入れをされたり、収穫をされたり、収穫した季節の野菜で皆さんに皮むき・キザミを手伝って頂き、サラダ・おでん・鍋等の料理を作り楽しみ、食べる楽しみをお届けしている。また、おやつにも、ぜんざい・だんご・たこ焼き等、季節や行事に合わせて手作りをを行っている。茶碗を洗ってもらったり、生活リハビリにも会話や笑顔が見られている。今後も「入居者様との関係性」を意識し、入居者様とのかかわり方を大切にする。

2 家族単位の支援

面会時、ご家族様、本人様が好きな場所で、ゆっくり過ごして頂けるよう心掛けた。また、近状報告などを行い、ご家族様との関係にも気をつける事が出来た。遠方等から面会された際の家族控室の活用もあり、ゆっくり過ごして頂けた。

開園記念日には、ご家族と入居者様と職員とで、がねあげ、巻き寿司等を一緒に作り、一緒にテーブルで食べる久しぶりにご家族様、入居者様が一緒にご飯を食べられ、楽しんで頂けた。

3 個別ケアに対する知識習得

介護技術も大切になるが、入居者様の動きを待つ事が大切になると考えており、入居者様との関係性を大切にし、入居者様が持っている力を引き出し、入居者様の力を信じ、接する事を大切にしていきたい。

また、入居者様1人1人の生活歴・暮らし・時間・嗜好にふれあい寄り添い関わる事が出来るよう、24Hシートを活用し、職員の情報共有していく。

4 地域とのふれあい

新和町のお祭り等も見学する事が出来、地域の方が話しかけて来られる事も多く、地域の方との交流出来た。

祭りも、見学が多いので、祭りに参加する事も検討していく。

まだ、慰問などで来て頂く事が多いので、地域に出ていく事も大切にしたい。

また、「買い物に行きたい」「家に帰りたい」「墓に参りたい」等の要望に対し、ドライブも兼ねて外出支援も行っている。社会・地域・ご家族様とのふれあいの充実にもつながっている。

栄養管理課事業報告書

I. はじめに

新和苑の理念及び基本方針に基づき、ご利用者様一人ひとりの生活を尊重し、その人らしい暮らしの継続を支援することを念頭におき、以下の実施目標を定め食事の提供を行った。

1、「真心（喜心・老心・大心）をこめて、人を良くする『食』を提供いたします」

①調理法の統一

厨房内で調理法の検討会を行います。（1回/月）

療養食の把握に努めます。

②HACCP の概念に基づき衛生的かつ効率的な業務運営

大量調理施設マニュアルに則った衛生管理の実施を行います。

③コミュニケーションの充実

昼食時のラウンドを実施します。

④楽しみある、安心、安全な介護食の提供

「お楽しみ献立」を実施します。（1回/月）

「喫茶の日」を実施します。（1回/月）

歳時記に合わせた行事食の提供を行います。

⑤地域に開かれたサービスの提供

配食サービスの提供を行います。

食事、栄養相談を行います。

「食」に関する情報の提供に努めます。（広報誌・HP）

以下、実際の取り組み状況について報告する。

II. 四季折々の歳時記に沿ったご膳の提供（表1・表2）

（表1）行事食実施状況

月	内 容
4	開苑記念祝い膳

5	端午の節句ご膳
6	
7	七夕ご膳・夕涼み・土用丑の日
8	精進料理
9	敬老の日お祝い膳・秋分の日（おはぎ）
10	別館開設祝い膳
11	寿司の日
12	餅つき
1	新年祝賀会ご膳・七草粥・鬼火焼き
2	節分・バレンタインデー
3	お雛様ご膳・春分の日（ぼたもち）

(表2) 「お楽しみ献立」及び喫茶の日実施状況

月	おたのしみ献立	喫茶の日
4	ピースご飯・赤魚の西京焼き・だご汁・ワサビ和え 紅茶ゼリー	カフェオレゼリー
5	ピザバーグ・玉ねぎの洋風かき卵スープ ブロッコリー・オレンジジュース	メロン（金乙女）
6	稲荷寿司・冷やしソーメン・なすの田楽・笹団子	芋入り抹茶蒸しパン
7	うなぎオムレツ・すまし汁・スパゲティーサラダ 杏仁豆腐	蒸しパン
8	海老と豆腐のあんかけ炒め・ハウレン草と卵のスープ・ ゆでキャベツのサラダ・CC レモン寒	白玉入りぜんざい
9	豚丼・玉子スープ・レンコンとツナのサラダ メロンゼリー	お月見団子
10	中華丼・卵スープ・かぼちゃの柔らか煮 リンゴジュース	芋寒天寄せ
11	石狩鍋・もやしの酢の物・CC レモン寒	カップケーキ
12	野菜入りマーボー豆腐・ちんげん菜の和え物 レタススープ・芋ぜんざい	プリン
1	海老ときのこの和風グラタン・白菜のかき卵汁 大根とベーコンの味噌煮・さつま芋のリンゴジュース煮	リンゴとさつま芋の重ね煮
2	竹の子ご飯・鯛の味噌漬け焼き・すまし汁 シモザサラダ・桃ゼリー	チョコブラウニー
3	五目ご飯（非常食）・かに玉・きのこスープ・ 小松菜の煮浸し・煮豆	コーヒー蒸しパン

Ⅲ. 療養食等・サプリメント（表 3）

（表 3）療養食等・サプリメント提供者数 （H29年3月31日現在） 数値：人数

療養加算食		非加算食		サプリメント	
たんぱく質制限食	0	経管栄養食	3	アイソカルジェリーPCF	2
エネルギー制限食	8			ペムパル	2
貧血食	1			ソフトリッチ	2
脂質代謝異常食	2			鉄ゼリー	1
減塩食	3				
貧血食+減塩食	1				

Ⅳ. 栄養素等摂取状況（表 4・表 5）

（表 4）平均給与栄養素等

量

エネルギー (Kcal)	1486	VA (μ g)	892
たんぱく質 (g)	58.7	VB ₁ (mg)	0.96
脂質エネルギー (%)	23	VB ₂ (mg)	1.15
カルシウム (mg)	659	VC (mg)	78
鉄 (mg)	7.6	食塩相当量 (g)	8.8

（表 5）食事形態

（H29年3月31日現在 入所者数 50名）

主食		副食		汁物	
常食	19	常菜	26	普通	38
おにぎり	1	荒刻み	0	ブレンダーとろみ	8
軟食	8	刻み	10	そのままとろみ	2
粥食	13	ブレンダー	9	ブレンダーそのまま	2
全粥ゼリー	1				
粥ブレンダーゼリー	3				
サプリメントのみ	2				
パン（朝食）	0				
経管栄養食	3				

Ⅴ. 衛生管理実施状況

① 検便検査（1回/月）

(10月はノロウイルス検査実施)

- ② 健康診断 (1回/年)
- ③ 厨房内清掃・オゾンによる消毒 (毎日)
- ④ 溝掃除 (毎日)
- ⑤ 食器ハイター消毒 (2回/週)
- ⑥ 厨房内一斉消毒 (3回/年)
- ⑦ グリストラップ清掃 (1回/月)
- ⑧ 外部倉庫清掃 (2回/週)

デイサービスセンター たんぽぽ事業報告

◎事業活動報告

毎朝来所後は、バイタル測定にて体調管理し、異常時は再度測定、必要時には家族への報告行っている。体調確認後ラジオ体操やテレビ体操にて準備体操後、1日の活動を開始する事で、ご利用者様・職員の事故防止に努めている。利用者様のニーズに応えられる様、脳トレーニングメニューを増し提供できている。計算問題は、継続して実施され計算能力の向上も見られる。また、カラオケや嚙下体操・全体体操・料理・ゲーム・壁飾り等皆で協力し作成出来、楽しみながらの認知症予防に努めている。

訓練面では機能訓練担当者により個別訓練を中心に歩行の姿勢改善や杖や歩行器の使用方法、立ち上がりのアドバイス、歩行力の維持・向上に努め歩行の自立や転倒による生活能力の低下防止の為に支援している。デイサービス内での事故報告は無かったが、認知機能の低下から自宅での転倒報告増えている。今後も認知機能及び下肢筋力低下防止の為に訓練継続していく。

ご利用者様の状態変化時には、家族やDrへの状況報告を行い、早期の対応にて悪化防止出来ている。今後も在宅生活の支援をしながら、心身の機能向上や維持ができるように活動してゆく。また、2月にご利用者様・ご家族様に対してアンケート実施しており、結果を踏まえ今後のサービス向上に繋げていく。

○活動内容

- ・経絡体操 (月2回・年23回)
- ・お茶摘み 4/29
- ・体力テスト (年2回)
- ・簡易認知症テスト (年2回)
- ・し好調査 (年1回)
- ・ヒヤリ・はっと報告 (年6件)
- ・事故報告 (0件)
- ・誕生会 (月1回)
- ・新規利用者受け入れ (年11名)
- ・たんぽぽ便り発行 (月1回)
- ・デイサービス利用終了者、入院・永眠・他施設への利用変更 (年5名)
- ・野外歩行訓練を目的とした (竜洞山ドライブ・栖本町いげ神様参り・城河原観音寺参り) ドライブ。

○職員関連活動内容

- ・運営推進会議 4月・10月
- ・たんぽぽ会議・ケース会議（月1回 毎月20日）
- ・部署内研修・出張報告（年13回）
- ・サービス担当者会議（介護認定変更や利用開始時に担当ケアマネより随時）
- ・介護初任者研修受け入れ（年5回）
- ・ご利用者様・ご家族様へアンケート実施（H29年2月）
- ・新和中福祉体験学習受入 4名 ・新和中職場体験受入 1名

グループホームしんわ 事業報告

基本方針【自宅で過ごされるような居心地の良さの迫及】

事業方針【入居者様の主体性を尊重する】

- ・入居者様の生活歴や趣味等に応じて、地域との交流・趣味の継続を図り、日常生活の中で新たな取り組みを広げる支援ができた。入居者様の生活は、「動き出しは当事者から」の取り組みの実践と、入居者様一人一人の好みや状態に応じて個別支援や、グループでの活動を通して、入居者様一人一人の想いの実現と刺激のある日々の暮らしが送れるように支援できた。

また、家庭的な雰囲気となるように、職員の動きや言葉かけ、室内空間作りにも気を配った。

事業内容

①【良質なサービスの提供】

- ・開設当初から、徹底している「丁寧な言葉かけ・適切な接遇対応」について、今年度グループホームしんわに配属された職員に対しても、基本理念の順守を徹底させた。
- ・安全対策としては、ヒヤリはっと事例が同じ入居者様に発生している状況であるが、事故防止のための見守りや支援を最大限に行なっている。入居者様のプライバシー保持や主体性の観点を鑑み、今後も出来る限りの安全対策を講じていきたい。
- ・チームケアについては、申し送り帳の活用、口頭での申し送りの二段階チェックを実施し、入居者様の最新の情報及びケア内容の変更が速やかに行き渡るように徹底した。
- ・余暇活動の充実については、日々の日課を中心として、グループでの外出支援も随時実施できた。
- ・職員のスキルアップについては、法人主体の研修に加えて、部署内研修を定期的を実施し、必要とされる研修を効果的に実施することができた。

②【自立支援に向けた取り組み】

・「動き出しは当事者から」の取り組みの実践について、食事・排泄・運動・水分・口腔ケアを中心とした生活支援を実施するにあたり、自分で動きたくなるような声かけと、待つという姿勢を心がけ、以前より入居者様の動きが活発になってきたように思う。

③【家族との連携】

・行事を行なう際には、事前に家族への参加呼びかけを行ない、一定の参加が見られた。入居者様の状態報告は変化があれば随時報告を行ない、家族と協議のうえでサービス内容を決定することができた。

④【地域との連携】

・地域行事には積極的に参加することができ、地域住民との交流も深まっているように思う。また、小宮地保育所の協力で、グループホームしんわでのそうめん流しや、小宮地保育所での交通安全教室や運動会などにも参加でき、交流を深めることができた。

⑤【効果的な防災訓練の実施】

・法人、新和分署との合同訓練に加えて、グループホーム内での訓練も毎月実施することができた。主に、避難訓練・消火訓練・通報機器の取り扱い・各種非常用機材の取扱いなどを行なうことができた。

【利用実績】

4月	利用率	98.9%	(外泊計3日・入退所あり)
5月	利用率	97.8%	(外泊計3日・入院計3日)
6月	利用率	89.3%	(外泊計3日・入院計26日)
7月	利用率	97.8%	(外泊計2日・入院計4日)
8月	利用率	99.3%	(外泊計2日)
9月	利用率	99.3%	(外泊計2日)
10月	利用率	99.3%	(外泊計2日)
11月	利用率	99.3%	(外泊計2日)
12月	利用率	97.1%	(外泊計1日・入院計7日)
1月	利用率	98.9%	(外泊計3日)
2月	利用率	100%	
3月	利用率	98.6%	(外泊計2日・入院計2日)

合計外泊日数 25日 合計入院日数 42日

・疾病のための入院。事故等によるケガでの入院はなし。

平均利用率 98.0%

【行事实績】

- 4月 花祭り 茶摘み
- 5月 菖蒲湯 ドライブ
- 6月 キリ教会来苑 舞踊訪問
- 7月 七夕 夕涼み会 バーベキュー
- 8月 精霊流し そうめん流し (保育所)
新和サマーフェスティバル参加
- 9月 敬老会 小宮地保育所運動会参加
- 10月 大宮地祭り参加 竜洞山ドライブ 中学校駅伝応援
- 11月 温泉入浴 よろず市参加
- 12月 クリスマス会 餅つき
- 1月 新年祝賀会 鬼火焼き 健康祈願祭
- 2月 節分
- 3月 ひな祭り

【部署内研修実績】

- 4月12日 「業務マニュアルの確認・見直し」
 - 5月20日 「倫理・法令遵守について」
 - 6月4日 「記録の書き方について」
 - 7月14日 「移乗動作の確認・ケアの統一」
 - 8月9日 「高齢者の虐待防止・権利擁護について」
 - 9月26日 「認知症ケアの実践について」
 - 10月25日 「ターミナルケアの実施について」
 - 11月22日 「介護事故防止について」
 - 12月15日 「動き出しは当事者からの実践について」
 - 1月19日 「感染症対策について」
 - 2月23日 「事故発生防止対策について」
 - 3月11日 「緊急時の対応について」
- ・計画にとらわれず、状況に応じた実践的な研修を定期的に行なうことができた。

【部署内訓練実績】

- 4月 2日 「緊急時の通報システムの使用方法について」
 5月 21日 「避難経路・火元付近の状況確認・整理整頓」
 6月 14日 「消火設備取扱い訓練」
 「停電時の対応及び配電盤について」
 7月 25日 「自然災害を想定した対応について」
 8月 9日 「車椅子を利用される入居者の対応・車椅子点検」
 9月 9日 「避難経路・火元付近の状況確認・整理整頓」
 「コンセント・プラグ清掃」
 10月 23日 「暖房器具による火災対応について」
 11月 7日 「車椅子を利用される入居者の対応・車椅子点検」
 12月 23日 「避難経路・火元付近の状況確認・整理整頓」
 「コンセント・プラグ清掃」
 1月 16日 「自然災害を想定した対応について」
 2月 4日 「緊急時の連絡方法確認・消防署への通報確認」
 3月 15日 「新和分署立会いでの消火・避難訓練」

居宅介護支援センター新和苑 事業報告

月別居宅介護支援事業実績（ケアプラン作成）

年・月	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
28・4	3	5	5	5	2	2	—	22
5	3	5	4	6	2	2	—	22
6	3	5	4	6	2	2	—	22
7	3	5	4	6	1	2	—	21
8	3	5	4	8	1	2	—	23
9	2	4	5	7	1	2	—	21
10	1	5	4	11	2	3	—	26
11	1	4	4	10	2	3	—	24
12	1	3	5	9	2	2	—	22
29・1	1	3	5	8	2	2	—	21
2	1	3	5	7	3	2	—	21
3	1	3	5	8	2	2	—	21
総合計	23	50	54	91	22	26	—	266

28年度中施設・病院への異動 5名

28年度新規利用者 7名

- ・居宅介護支援件数が増加し、介護予防支援計画件数が減少し、総件数は増加。
- ・要支援2の認定の方が更新により、要介護1又は要介護2の認定となるケースが多かった。
- ・心身の機能を維持し、自宅での生活継続の支援をしているが、認知症の進行によりそれが困難になってしまうケースがあった。独居の方や高齢夫婦で生活されている方も多いため、今後も子のようなケースが増えてくると思われる。

生計困難者に対する相談支援事業 事業報告

相談件数 2件
 訪問回数 4回
 支援内容 宿泊場所提供 1件
 経済的支援 1件(継続中)

天草市社協さんからの相談のみの対応であったが、今後困難事例が出てくると予想されるため、色々な制度を活用し、迅速な対応が出来るよう、研修や制度の理解が必要だと感じている。

配食サービス事業年間実績報告書

1 総括表

年間配食数	年間利用実人員	普通食	配慮食数
1, 077食	9人	660食	417食

2 月別実績

月	配食		配食数合計
	昼	夜	
4月	17食	113食	130食
5月	13食	106食	119食
6月	—	91食	91食
7月	—	87食	87食
8月	—	87食	87食
9月	—	89食	89食
10月	—	88食	88食

11月	—	86食	86食
12月	—	68食	68食
1月	—	78食	78食
2月	—	69食	69食
3月	—	85食	85食
合計	30食	1,047食	1,77食

3 委託料及び利用料

	配食数	委託料 (A)	利用料 (B)	合計 (A+B)
課税世帯に属する者 (個人利用料500円/食の者)	103食	30,900円	51,500円	82,400円
非課税世帯に属する者 (個人利用料300円/食の者)	974食	487,000円	292,200円	779,200円
合計	1,077食	517,900円	343,700円	861,600円